

ボランティア活動時の感染症予防のために

<共通事項>

ボランティア活動を企画/運営するすべての団体は、被災者を支援するという目的のために、必ず感染症対策に配慮した取り組みが必要です。重要なことは、被災者（被災地域の住民）が安心して受け入れできる事です。独りよがりの対策にならない様、適切な情報公開とコミュニケーションでお互いに安心できる環境を作りましょう。

<事前準備>

○ 活動を企画する際

- 被災者と接する活動を行う場合、原則として全員ワクチンを3回接種しましょう。接種できない方は被災者と接点を持たない活動に取り組みましょう
- スタッフ全員で感染対策の基本を確認し、ボランティア個人への呼びかけの内容を実践しましょう
- 自分たちの考える活動に潜むリスクがどのようなものか、どうやってリスクを下げるか確認しましょう
- 活動場所の医療受入体制（ケガ・病気）と新型コロナウイルス受診・相談センターの連絡先を確認しておきましょう
- 「医学的アドバイス」「ボランティア受入方針」を入手し、自分たちの地域及び被災地の状況を確認し、安心して受け入れて貰えるか確認しましょう

被災地住民の声などを反映した結果、「医学的アドバイス」と「ボランティア受入方針」で、求める感染対策や募集範囲に違いがある場合があります。その際には、より厳しめの対応を求めている資料を優先してください。

- 感染対策に必要な備品（予備のマスク、石けんやハンドソープ、アルコール手指消毒薬、体温計、環境消毒のための家庭用洗剤や布巾 等）を準備しましょう

○ ボランティア募集/活動告知する際

- ホームページやチラシ等には取り組んでいる感染対策を明示しましょう。また、当日であっても中止や延期がある事を明記しましょう
- 参加するボランティア個人への感染症対策の呼びかけを事前に伝え、参加前から体調管理に取り組むように促しましょう

<活動当日>

○ 活動/イベント開始前

- 室内や、屋外でも不特定の人が同じ場所を触る会場の場合、参加者が集まる前に環境消毒を行いましょう
- 受付時、参加する全員に体調の確認と検温を行いましょう
(もし37.5℃以上の方、咳等明らかに体調が不良の方がいた場合は他者と2m以上の間合いが取れる換気の良い場所に自己隔離してもらい、参加を断って、帰宅して医療機関に受診するよう促しましょう)
- マスク所持を確認し、持っていない人がいた場合は予備を配りましょう
- ボランティア/支援した住民の連絡先が分かる名簿を作成しましょう
(感染者がいた場合には保健所に提供する事を告知しておきましょう)

○ 活動中

- トラブルに備えて当日の責任者を決め、いつでも駆けつけられる範囲に待機しておきましょう
- 参加しているボランティアと常に連絡が取りあえるようにしておきましょう
(ボランティアリーダーの連絡先を把握し、団体の緊急連絡先を周知する)
- グループで活動する場合、グループ毎に一人以上「感染予防アドバイス担当」を決めて、リスクが高まる場面に気づいたらその場で助言し合うと良いでしょう。(グループリーダー等他の役割と兼務でも可)
- 体調不良者が出た場合、熱中症などの可能性もあります。他者と間合いを確保できる換気の良い休憩場所で休んでもらい、様子を見ましょう。
体調が回復しない場合は活動を切り上げてもらい、帰宅して受診する/被災地内の医療機関で受診する、等対応しましょう。

<活動後>

○ 感染発覚時と個人情報保護に配慮した名簿管理

- 活動日から最低2週間は参加者名簿を保持し、もしボランティアや参加した住民に感染者が出ていた場合は、保健所に協力して濃厚接触者を確認する際に提供しましょう
- 2週間以上経った名簿は個人情報保護に配慮して適切に廃棄しましょう
(感染症対策以外の用途で提供を受けた個人情報はその用途に応じて適切に管理しましょう)